

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和7年1月24日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会派名	市民とともに	代表者	
		議員名	山崎 丈
派遣者氏名	肥後淳三、山崎丈、橋本維文、大西憲司		
視察先	① 千葉県木更津市役所 木更津市富士見 1-2-1 ② 千葉県大網白里市市役所 大網白里市大網 115-2 ③ 千葉県匝瑳市役所 匝瑳市八日市場ハ 793-2		
調査事項 (調査目的)	① オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて ② デジタル博物館について ③ ゼロカーボンシティの取組み(ソーラーシェアリングの取組み)		
日時	2025年 1月 14日(火曜日) ~ 2025年 1月 16日(木曜日)		
支払金内訳	科目	支出額	摘要
	宿泊料	27,000	13,500円×2泊
	日当	9,000	3,000円/1日×3日
	鉄道賃 (モレール)	33,150	別紙参照
	航空賃		
	バス賃		
	船賃		
	タクシー		
	その他	2,268	手土産 3,024×3か所/4人=2,268円
合計	71,418		
備考			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和7年 1月24日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	山 崎 丈
派遣者氏名	肥後淳三、山崎丈、橋本維文、大西憲司		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	① 千葉県木更津市役所 木更津市富士見 1-2-1 オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて ① 千葉県大網白里市市役所 大網白里市大綱 115-2 デジタル博物館について ② 千葉県匝瑳市役所 匝瑳市八日市場ハ 793-2 ゼロカーボンシティの取組み(ソーラーシェアリングの取組み)		
日 時	2025年 1月 14日(火曜日)～ 2025年 1月 16日(木曜日)		
視察先対応者	① 千葉県木更津市役所 議会事務局 (司会) 前田 様 ② 大網白里市市役所 議会事務局 事務局長 岡部 一男 様 ③ 千葉県匝瑳市役所 市議会 (司会) 川島 誠二 様		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可  ・視察資料(木更津市、大網白里市、匝瑳市)は、山崎の報告書でご参照ください。 ・調査結果及び所見は、別紙1:木更津市、 別紙2:大網白里市、 別紙3:匝瑳市 に添付しています。			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

千葉県木更津市 テーマ「オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて」

(1)「オーガニックなまちづくり」と「きさらづ地域循環共生圏」の創造に向けた取組について

企画部オーガニック推進課

2016年3月 市議会定例会における渡辺市長「オーガニックなまちづくり」を掲げる

2016年～ 第1期アクションプラン 「木更津 オーガニックシティ フェスティバル」

2020年～ 第2期アクションプラン

2024年～ 第3期アクションプラン

「きさらづ地域循環共生圏」

…里山再生、資源循環の促進、食・有機農業、再生可能エネルギー、里山活用

市長の強いリーダーシップによって「オーガニックなまちづくり」が始まったことがよく分かった。

(2)木更津市の学校給食

教育委員会 学校給食課

キャッチフレーズ 「～いきる つながる 食育のチカラ～」

スローガン 「～地域とつながる 学校給食～」

事業費 1018万円(市内産コシヒカリと有機米の差額を市で補填)

令和5年度 … 83日有機米実施/134回米飯給食

第3子以降給食費無償化(県の補助1/2)

生産者、寄付者の給食参観

三田でも、地産地消の生産者の方の給食参観ができると、農家の方のモチベーションが上が  
り、学校と農家の顔の見えるいい関係が築けそうです。是非、取り組んでいきたい。

(3)きさらづ学校給食米

木更津市有機農業推進協議会

千葉県いすみ市を参考に、NPO 法人民間稲作研究所の先生に依頼したのがスタート。

令和元年度は5人(給食3日分)から、令和5年度には、16名(給食96日分)を提供。

有機 JAS 認証取得が大変

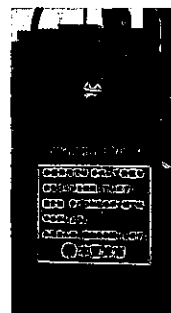
三田でも以前カルガモ農法が行われていたが、近くの田畑で農薬が使われると、JAS 認証が  
取れないという状況があった。一つの谷、一つの地域が協力しないと実現できない。是非とも、  
三田市も学校給食には、地産地消で安心安全なオーガニック米を進めてもらいたい。



マスコットのためき(駅前)



市議会議場で記念撮影



看板「オーガニックシティきさらづ」

千葉県大網白里市 テーマ「デジタル博物館について」

デジタル博物館事業について

教育委員会生涯学習課

- (1) 平成 23 年 4 月 「大網白里町第 5 次総合計画」に、「インターネット活用のデジタル博物館づくりを推進します」の記載 … スタート
- |             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| 平成 28 年 9 月 | 公益財団法人図書館振興財団から 2120 万円の助成を受ける。 |
| 平成 31 年 3 月 | 一般財団法人自治総合センターから 200 万円の助成を受ける。 |
| 令和元年 11 月   | 公益財団法人図書館振興財団から 390 万円の助成を受ける。  |
| 令和 3 年 3 月  | 一般財団法人自治総合センターから 280 万円の助成を受ける。 |
| 令和 4 年 5 月～ | クラウドファンディング(3 か月) 39.3 万円を受ける。  |
| 令和 6 年 3 月  | 登録博物館に認定(全国初)                   |

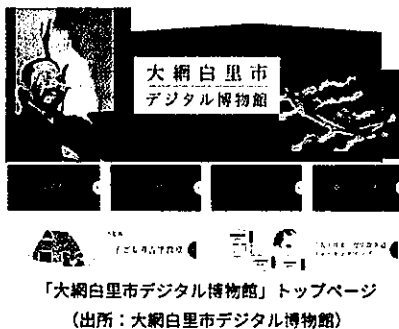
市の予算は 76 万円余りですが、様々な財団から助成を受けることで、コンテンツを追加して第 5 次公開までバージョンを上げ、使いやすい、見やすいデジタル博物館にされたことが分かった。市の総合計画に、どのようなことが書かれているのか、やる気をもって挑戦する職員と情報共有することが大事だと強く感じた。

- (2) 大網白里市に、博物館、資料館、美術館がない。  
→「展示施設を持たない」市立のデジタル博物館  
館長は、課長が兼務、  
学芸員(埋蔵、日本古代史専門)…武田さん(中心人物)  
事務員

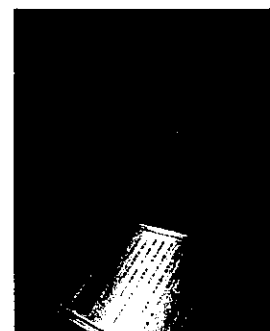
多くの人員がいるわけではないが、中心となる職員が、様々なところにアンテナを張り、少ない予算と人員を有効活用して、事業を進めていったことがよく分かった。職員のやる気を引き出すシステム作り、支える体制づくりが大切だと分かった。

- (3) 市内小学校、市民団体向けの公開講座がよかった。

最近の学校現場とデジタルはとても相性がいい。例えば、三田市 3 年生の社会科副読本「わたしたちのまち三田」の中に QR コードを入れることで、子ども達の興味関心が向上する。是非とも、子ども達や市民のために、教育とデジタル博物館をコラボさせていきたい。



学芸員の方に質問



三田に日本初の私立博物館があった

千葉県匝瑳市 テーマ「ゼロカーボンシティの取組み(ソーラーシェアリングの取組み)」

(1) 匝瑳市の脱炭素に向けた取組

ゼロカーボン推進課

2014年 市民エネルギーちば1号機設置 → 農業支援(耕作委託金8万円/年)  
 2017年 1MWのソーラーシェアリング → 農業+地域基金  
 現在 5MWのソーラーシェアリング → 農業支援(耕作委託金10000万円/年)  
 地域基金(400万円/年)

農業を支えるだけでなく、地域を支えることを目指したソーラーシェアリング。  
 地域基金を活用した取組…耕作放棄地の再生、環境保全活動、地域活性化・振興、  
 新規農業者や子ども達支援 → 持続可能な社会

脱炭素に向けて「営農型ソーラーシェアリング」は、農業支援という狭い枠組みではなく、  
 地域振興も含めた大きな住民等の行動変容を目的としているように思った。住民や民間  
 事業者とのコンセンサス(合意形成)がとても大切だと感じた。

(2) 農業と地域を支え 共に歩む ソーラーシェアリング

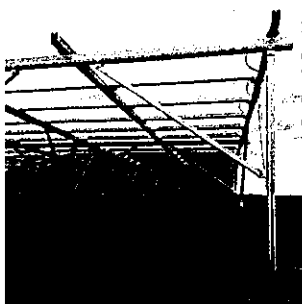
市民エネルギーちば株式会社  
 匝瑳市みらい株式会社

元々、開畑地区は、牛や豚の糞(厚さ15~20cm)、産廃の捨て場 → 土壌汚染  
 ピンチをチャンスに変えるアイデア

2016年 約9haの畑で有機JASを取得し、大豆と麦を中心に栽培

2021年 40代の新規農業者と新卒若者がやく7haの畑で大豆を栽培。有機JASへ。

新しく農業をやろうとする人がチャレンジしやすい環境を作ると、農業だけでなく、様々な  
 分野と連携してアイデアが生まれることを知った。民間のアイデアに、行政が支援をする  
 ことで、市民が幸せになる素晴らしい事例だった。



畑の上で発電、下で農業 自然と共存するソーラー発電

実証実験現場で記念撮影

【総合所見】

木更津市の「オーガニックなまちづくり」では市長、大網白里市の「デジタル博物館」では学芸員、匝瑳市の「ソーラーシェアリング」では民間会社取締役が、キーパーソンとなってプロジェクトを進めていた。どのプロジェクトでも、核となる人物がいて、その周りに共感する人たちが支えあい、大きな活動になっていた。先進地域の全てを三田に取り入れることは難しいが、少しでも、考えなどを他の議員や職員の皆さんと共感し、今回の視察研修を反映させていきたい。